

# おおいたがわ 大分川水系大分川ダム試験湛水中の効果（令和元年 台風10号）

- 台風10号に伴う豪雨により、大分川ダム上流域においては、298mm(8月14日10時～15日18時)の累加降雨を観測しました。
- 大分川ダムは、現在、本格運用前の試験湛水中ですが、256.7万m<sup>3</sup>(25mプール約7,132杯分)の洪水を一時的に貯留し、ダム下流の七瀬川の水位低減(胡麻鶴地点で44センチの水位低減)を図りました。
- 大分川ダムの洪水貯留がなければ、七瀬川の水位は氾濫注意水位2.8mを超過していたと推定されます。
- 大分川ダムの完成に向け、引き続き試験湛水を着実に実施していきます。



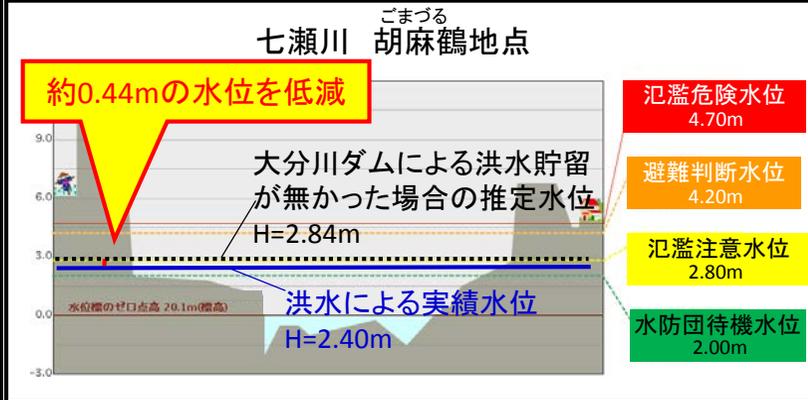
## ◆大分川ダムの状況

最大流入時のダムの調節量  
約85.0m<sup>3</sup>/秒(=①-②)  
少なくなって、流れていた。

②下流の河川へ  
流れた水量  
32m<sup>3</sup>/秒  
(8月15日5時40分時点)



今市雨量観測所(累加雨量): 298mm(8/14 10時～8/15 18時まで)



※本資料の数値は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。